KEY
EXPERIENCE

01

仲間と挑む、課題解決の現場。
対話から生まれる技術の一手。

研究開発／繊維
理学研究科修了
2013年入社

M.T

重視したのは“雰囲気の良さ”。

入社の決め手は、社員同士の距離感の近さ。コミュニケーション力が高い方が多く、風通しの良い雰囲気に惹かれました。入社から10年以上が経ち、現在は研究を続けながら、お客様から直接課題をくみ取り、製品開発に活かす役割を担っています。技術力で課題を解決するのが、私たちの仕事。開発・改善した商品で期待に応えられたときには、大きな達成感があります。





ひとりでは届かない答えがある。

見えなかった要因を、チームワークで掴む。

研究の際、心強いのが“仲間”の存在。あるとき、製品を変更した直後に、お客様から「"糸の製造"に不具合が生じた」と相談を受けました。しかし、従来の評価基準では問題が見えず、原因がまったく分かりませんでした。そこで、実際にお客様の工場に入り、糸の製造工程を細かく確認。従来の評価基準を何度も見直し、新たな評価基準を設計しました。その結果、不具合の要因を特定。課題を解決することに成功しました。ここまで辿り着けたのは、長年積み重ねられてきた知見と、仲間との対話があったからこそです。先輩の経験や若手ならではの視点、さらに他部署と連携しながら検討を重ねることで、技術は前に進みます。突破力を兼ね備えたチームワークは竹本油脂の誇りであり、これからも私の支えです。

グローバルな知見を開発に活かす。

現在担当している中国のお客様に加え、今後は東南アジアやヨーロッパ、アメリカなど異なる地区の案件に携わりたいです。国によってお客様の要望や製造条件、アプローチ方法はさまざま。各国で得た知見を、開発に活かしたいです。また、管理職として組織全体の力をより高めることも目標。個ではなく、チームで成果を出し続けられる環境づくりに注力したいです。



チームで切り拓く、開発の最前線。

0.1%まで見逃さない。

綿密な計画で目標を可視化。

研究は、思い通りに進まないことの方が多い仕事です。だからこそ、成果を出すためには、1年、1ヶ月、1日と細かく目標を設定し、計画的に取り組むことが重要。目標を数値で示すことで認識のずれを防ぎ、チーム全体が同じ方向を向いて進めるよう意識しています。

トレードオフの壁を打破。

印象に残っているのは、これまでにない要望に応える新製品の開発です。ある性能を高めようとすると、他の性能が落ちてしまうというトレードオフの課題にぶつかり、前に進めない日々が続きました。そこで選んだのは、わずかな変化も見逃さないよう、一つひとつの結果を丁寧に検証し続けること。配合比率を0.1％単位で調整し、粘り強く実験を繰り返しました。課題を乗り越えたとき、お客様からいただいた「竹本油脂ならやってくれると思ったよ」という言葉は、今でも強く残っています。私たちに寄せられる信頼は、先輩方が研究に真摯に取り組んできた証です。その期待に応え続けたいという気持ちが、次への原動力になっています。現在は研究を続けながら、興味を持っている化学物質管理に関する業務にも携わっています。今後は法規への理解をさらに深め、広い視野で新たな製品を生み出していきたいと考えています。



粘り強さが導いた突破口。

研究も子育ても心地よく。
広い視野で可能性を拓く。

研究開発／土木建築
工学研究科修了
2018年入社

A.N

ライフスタイルに合わせた働き方。

現在、子育てをしながら、研究の仕事に向き合っています。両立を支えているのが、フレックス制度と私に合わせた業務内容です。復職前に上司と面談を行い、勤務時間や出張の可否、保育園のお迎え時間など細かい部分まですり合わせ、私の生活スタイルに合う働き方を調整していただきました。竹本油脂には、女性の研究者も多数在籍しています。個々に合った働き方ができるため、安心して研究を続けることができています。

02





KEY
EXPERIENCE

03





好きから始まった、化学。“夢中”が成果につながる。

研究開発／合成樹脂フィルム
生命農学研究科修了
2021年入社

H.O

社会の役に立つ喜びと達成感。

もともと化学が好きで、小学生の頃から自由研究に夢中でした。実験と仮説検証を繰り返すことが楽しく、気づけば研究の道を志していました。竹本油脂に惹かれたのは、研究だけにとどまらない仕事の広がりです。現在の業務では、お客様と対話し、ラボで生まれたアイデアを製造現場で試験しながら、一つの製品をつくり上げています。そうした過程のなかで、自分の研究と社会が“つながっている”という実感を得ています。

失敗も、すべて糧となる。

成功を引き寄せた、仲間の存在。

自身の力で考え抜くことは大切ですが、一人で抱え込まないようにしています。その重要さを実感したのが、主担当として携わった新製品の開発です。気合を入れて臨みましたが、いざ着手してみると、想像以上にハードルが高く、課題と向き合う日々。思うような結果が得られず、思い悩む時間が長くなっていきました。そんなときに支えになったのが、仲間の存在。周囲と意見を交わすことで、それまで気づかなかった視点や新たなアイデアが次々と生まれました。それらを基にデータを改めて見直し、分析を重ねることで、課題解決への糸口を見いだしました。開発した新製品の試験は、無事に成功。お客様からいただいた感謝の言葉に、自分の研究が社会の役に立つ喜びを強く実感しました。

失敗からしか得られないことがある。

この経験を通して、大きく変わったのは“失敗”の捉え方です。結果が出なかった実験にも、必ず次につながるヒントがあると感じるようになり、上司や先輩からいただいた「失敗からしか得られないことがある」という言葉の意味を、身をもって理解できるようになりました。失敗を恐れず、お客様が求めるものをつくり続けていくことが私の仕事。ニーズを丁寧にくみ取り、技術で社会に貢献できる研究者でありたいです。

化学で社会に価値を届ける。



未到の領域に、あえて挑む。

前例がないからこそ、挑戦する。

大切にしているのは、すべての工程で曖昧さを残さず、根拠を一つずつ確認することです。入社初期に担当した既存設備の改造工事では、分からない点を曖昧なまま進めてしまい、後に大きな修正が必要となった経験があります。その結果、追加の時間やコストがかかってしまいました。この失敗を通して、納得できる根拠を確認しながら、判断を積み重ねることを心がけるようになりました。その姿勢を活かせたのが、当社製品の充填時に重要な役割を担う、ドラム容器の搬送設備更新です。初期段階で強度や安全性に問題点を見つけ、一つずつリスクを解消。膨大な図面の確認作業と検証に向き合うなかで、苦しい局面もありましたが、「前例がないからこそ、自分が成功させる」という決意を原動力にやり切ることができました。

工場全体を見渡せるエンジニアへ。

電気・制御の設計は、上流工程の判断が長期的な工場の形を決めます。その分、責任を伴いますが、同時に大きなやりがいを感じられる仕事です。今後、新工場の建設計画があれば、その設計にも挑戦したいと考えています。また最近、会社の資格取得制度を活用し、第二種電気主任技術者の資格を取得しました。この資格を活かし、工場の電気設備の要である特別高圧受変電設備の管理業務にも携わりたいと考えています。将来的には、設備単体ではなく、より広い視点で工場全体の最適解を描くエンジニアを目指しています。

精度で勝負するエンジニアへ。



工場の管理・運用の視点で電気技術の知見を極めたい。

生産技術／電気計装システム
工学研究科 電気・機械工学専攻修了
2021年入社

T.S

地元で、ものづくりに関わりたい。

学生時代は工学分野を専攻し、将来は自分の手で何かをつくる仕事をしたいと考えていました。自動車関係の会社に就職する先輩や友人が多いなか、「人と違う領域に挑戦したい」という好奇心から、化学品を扱う竹本油脂に入社。地元・蒲郡で働けることも決め手になりました。また、構想から実運転まで一貫して関われる点も魅力。装置が稼働し、積み上げてきた努力が可視化する瞬間こそ、この仕事の一番の醍醐味です。

04



